

ISO/TC61(プラスチック)/SC1(用語)、SC6(老化, 耐薬品性, 耐環境性)、SC10(発泡プラスチック)分野の最近の動向

1. ISO/TC61/SC1、SC6、SC10の構成

ISO/TC61/SC1は、用語についての規格を有する。規格数は、10である。

ISO/TC61/SC1は、用語についての規格を有する。規格数は、35である。

ISO/TC61/SC1は、用語についての規格を有する。規格数は、26である。

表1がSC1のWGの構成、表2がSC6のWGの構成、表3がSC10のWGの構成である。

コンビナーは、SC1のWG1が横内満氏、同WG3が、北山辰樹氏である。

表1 TC61/SC1のWG

WG	コンビナー	タイトル
WG 1	日本	用語
WG 3	日本	記号略語

表2 TC61/SC6のWG

WG	コンビナー	タイトル
WG 2	ドイツ	光暴露
WG 3	韓国	諸暴露
WG 7	USA	一般基準

表3 TC61/SC10のWG

WG	コンビナー	タイトル
WG 10	韓国	発泡性プラスチック断熱製品
WG 11	USA	物理・化学的性質
WG 12	韓国	機械的耐久性
WG 14	カナダ	製品及び材料

ISO/TC61年次国際会議は、Web会議で開催された。SC1はWG1のフリーディスカッションのみであった。SC6及びSC10は2020年の10月5日から9日にてWeb会議を行った。審議された国際規格の制定・改正において日本提案について記述する。

2. ISO/TC61/SC1、SC6、SC10の審議事項

(1) SC1 (用語)

幹事国：UK

2019年Systematic Reviewにて、ISO 1043-4(記号略語-4部：難燃剤)について、DIS投票を実施、FDISに進捗した。

(2) SC6 (老化, 耐薬品性, 耐環境性)

幹事国：ドイツ

日本からWG 2に2件の提案をした。「高感度発光計測法ポリマー材料の劣化特性評価方法」は、NP投票終了後に、WG2での審議結果からSC6の決議で、DIS投票に進捗した。

「LEDによる着色プラスチックの劣化評価」については規格の骨子を説明した。

WG7に提案した「抗バイオフィルム試験方法」については、NP成立後にCD投票に進捗した。

(3) SC10 (発泡プラスチック)

：幹事国：カナダ

日本から提案の、「硬質発泡プラスチックの水蒸気透過特性」については、NP投票を実施した。

(以上)